

追 悼

評議員 芥 川 武 博士 を 悼 む



日本鉄鋼協会評議員，東京大学工学部教授，工学博士 芥川 武君は昭和 33 年 6 月 26 日午後 8 時 30 分急に逝去せられました。本会は君の学界に貢献せられました偉大な功績を偲び洵に哀惜の念に堪えず，謹んで哀悼の意を表するものであります。

君は昭和 11 年東京帝国大学工学部冶金学科を卒業せられ，直に日立製作所に入社，安来工場冶金研究所に勤務せられました。君の英才は夙に認められ，招かれて昭和 18 年東京帝国大学工学部助教授に任ぜられ，昭和 28 年東京大学工学部教授となり，学生，後進の薫育指導に精進すると共に，塩基性平炉鋼滓の研究，耐熱鋼の研究，鋼の反射型電子顕微鏡組織の研究等多くの貴重な研究を完成し，昭和 27 年工学博士の学位を授与せられました。

その間本会編集委員，常務委員，理事，評議員として今日まで本会の発展に尽力せられると共に塩基性平炉研究会，鉄鋼技術対策委員会，鉄鋼技術共同研究会等の本会研究部会の委員あるいは主査として，また鉄鋼便覧，熱経済技術要覧等々の編集委員として学会の事業達成のために努力を傾けられ，さらに日本金属学会，日本機械学会等の役員を兼ね，学術振興会 19 委員会，同 123 委員会，航空技術審議会等々の委員として我国の学術技術の進歩発展に貢献される等，近年の我国鉄鋼に関する学術技術の目覚ましい向上発達は一に君の貴重なる研鑽に負う所大なるものがあります。

君のこの貴い功績は崇高な人格と俊秀な才能のもたらしたものでありまして，他のよくする所ではありません。しかし日夜倦むことを知らない究学への真摯な努力は，一昨年夏突然に君を病に伏せしめることとなりましたが，幸にして健康を恢復せられ，その後は専ら学徒の教育と研究の指導に専念せられ，健康の増進に意を用いられて着々その効を収めておられました。君は真に頭脳明瞭，博学強記にして，その高邁な人格は若い学徒の敬愛の的であり，卓越せる識見は広く各界の衆望をあつめ，近時漸くにして新しい発展の段階に到達した我国鉄鋼界が，熟達せる君の学識に依存し，期待する所は誠に莫大なものであります。

しかるに今日遽に君の訃に遭い，ただ我々の痛恨事とする所のみならず，邦家のため誠に痛惜おく能はざるものというべきであります。

今は君の温容に再び接するの術なく，君の教えを仰ぐ能はず，しかし君の尊い偉大な生涯はその後を嗣ぐ者を導き，後進を励まし，君の功績を不滅なものとするでありましょう。

本会は茲に君の偉大な功績を追憶すると共に，謹んで哀悼の意を表し，御霊の安らかな御冥福を祈るものであります。

社団法人 日 本 鉄 鋼 協 会